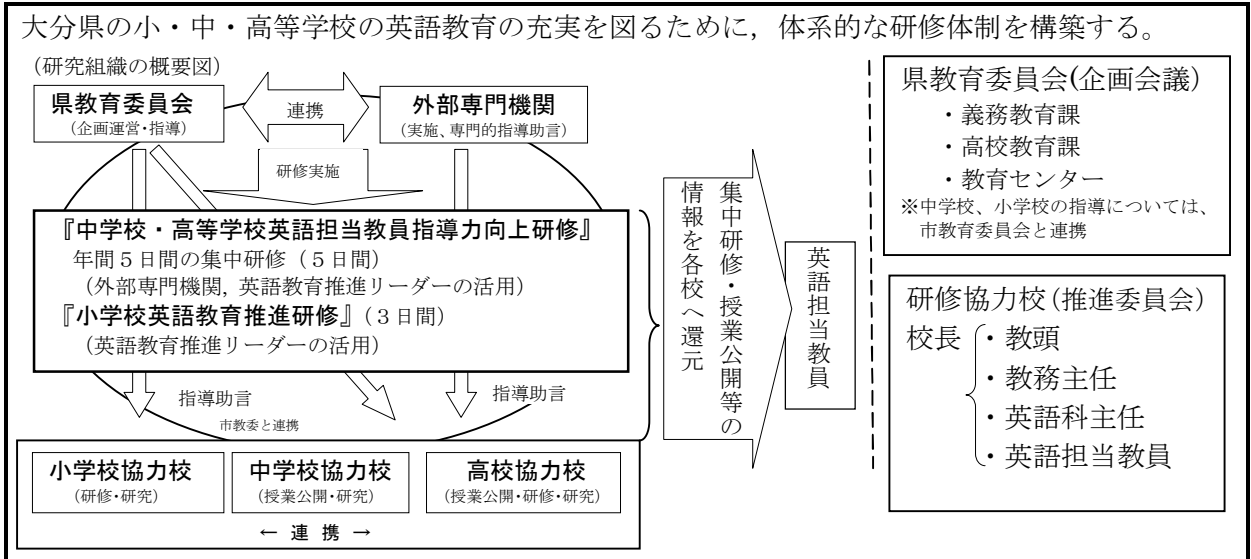


大分県英語教育改善プラン

1. 実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

○英語教育の状況を踏まえた目標管理

≪本県英語教育の状況(全体)≫

- ・「英語の勉強が好き」、「英語の授業がわかる」と答えた生徒の割合
 → 「好き」56.9%、「わかる」59.9% (H27 県学力調査)
 - ・中学校・高等学校の英語担当教員の英語力
 → 国の目標値に達していない (H27 英語教育実施状況調査)
- | | | | |
|---------|-------|-------|-----|
| 本県中学校教員 | 30.9% | 国の目標値 | 50% |
| 本県高校教員 | 55.5% | 国の目標値 | 75% |

≪本県英語教育の状況(具体)≫

【高 校】(H27 英語教育実施状況調査)

- ① 求められる英語力を有する教師の割合 (%) 60.1%
- ② 求められる英語力を有する生徒の割合 (%) 39.1%
- ③ 学習到達目標の整備状況
 設定 (%) 97.6%
 公表 (%) 22.4%
 達成状況の把握 (%) 65.9%
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%) 57.6%
- ⑤ パフォーマンステスト実施状況(スピーキング)
 - ・コミュⅠ 1.77回
 - ・コミュⅡ 1.88
 - ・英 表Ⅰ 0.66
 - ・英 表Ⅱ 0.79
- パフォーマンステスト実施状況(ライティング)
 - ・コミュⅠ 0.64回
 - ・コミュⅡ 0.79
 - ・英 表Ⅰ 1.28
 - ・英 表Ⅱ 1.86
- ⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況 (%) 54.6%

【中学校】 (H26 英語教育実施状況調査)

- ① 求められる英語力を有する教師の割合 (%) 30.9%
- ② 求められる英語力を有する生徒の割合 (%) 33.9%
- ③ 学習到達目標の整備状況 設定 (%) 55.1%
- 公表 (%) 21.4%
- 達成状況の把握 (%) 48.6%
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%) 67.6%
- ⑤ パフォーマンステスト実施状況(スピーキング) 2.53 回
- パフォーマンステスト実施状況(ライティング) 1.96 回
- ⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況 (%) 54.2%

《課題》

- ・求められる英語力を有する中学校・高等学校の英語担当教員の割合を一層高める必要がある。
(グローバル化に対応できる人材を育成するため、英語担当教員の指導力向上が引き続き重点課題である)
- ・求められる英語力を有する生徒の割合を高める必要がある。
- ・学習到達目標の設定への働きかけを強化する必要がある(中学校)。
- ・学習指導要領の趣旨に沿った授業を工夫・改善する必要がある。
(生徒の言語活動の充実、パフォーマンステストの実施、教員の英語使用状況の改善が必要)

《目標管理(全体)》

本県では平成26年10月に「大分県グローバル人材育成推進プラン」を策定し、その中で小中高を通じた児童生徒の英語力や教員の英語指導力向上のため、平成27年度には、有識者や教員からなる「英語教育改善推進委員会」を立ち上げ、本県における児童生徒の英語力の現状と課題を分析し、教員の英語力向上のための方策や「大分県発英語授業モデル」の開発等についても検討を行ってきた。平成28年3月には「大分県英語教育改善推進プラン」を策定し、公表したところである。平成28年度以降は、このプランに基づき、大分県の英語教育改善の取組を着実に進めるとともに、その継続的な充実を図っていく。

今回申請する本事業においても、プランの方向性を視野に入れながら、昨年度以上の目標管理を進めていく。

また、平成27年11月の全英連大分大会まで、県内各校で授業改善や各種研修・研究を継続的に行ってきた取組の成果を踏まえ、小中高校間の連携した取組を一層進めていく。

《目標値(具体) H28, H29 目標》

【高校】

- ① 求められる英語力を有する教師の割合 (%) (H28) 70% (H29) 75%
- ② 求められる英語力を有する生徒の割合 (%) (H28) 45% (H29) 50%
- ③ 学習到達目標の整備状況 設定 (%) (H28) 100% (H29) 100%
- 公表 (%) (H28) 50% (H29) 65%
- 達成状況の把握 (%) (H28) 65% (H29) 70%
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%)
- (H28) 60% (H29) 65%
- ⑤ パフォーマンステスト実施状況(スピーキング)
 - ・コミュⅠ (H28) 2.0回 (H29) 2.5回
 - ・コミュⅡ (H28) 2.0 (H29) 2.5
 - ・コミュⅢ (H28) 1.5 (H29) 2.0
 - ・英表Ⅰ (H28) 1.5 (H29) 2.0
 - ・英表Ⅱ (H28) 2.0 (H29) 2.5
- パフォーマンステスト実施状況(ライティング)
 - ・コミュⅠ (H28) 1.5回 (H29) 2.0回

・コミュⅡ	(H28) 1.5	(H29) 2.0
・コミュⅢ	(H28) 1.5	(H29) 2.0
・英 表Ⅰ	(H28) 1.5	(H29) 2.0
・英 表Ⅱ	(H28) 2.0	(H29) 2.5
⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況 (%)	(H28) 60%	(H29) 70%

【中学校】

① 求められる英語力を有する教師の割合 (%)	(H28) 35.0%	(H29) 45.0%
② 求められる英語力を有する生徒の割合 (%)	(H28) 37.5%	(H29) 42.5%
③ 学習到達目標の整備状況	設定 (%) (H28) 75.0%	(H29) 85.0%
	公表 (%) (H28) 25.0%	(H29) 30.0%
	達成状況の把握 (%) (H28) 65.0%	(H29) 75.0%
④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%)	(H28) 52.5%	(H29) 57.5%
⑤ パフォーマンステスト実施状況(スピーキング)	(H28) 2.75回	(H29) 3.0回
パフォーマンステスト実施状況(ライティング)	(H28) 2.0回	(H29) 2.25回
⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況 (%)	(H28) 55.0%	(H29) 57.5%

(3) 研修の体系と内容の具体

○研修の体系と内容の具体

≪計画的な研修の実施≫

- 研修名：①『英語担当教員指導力向上研修(中、高)』
②『小学校英語教育推進研修』
③『英語授業改善研修』
- 対象者：県内の英語担当教員 (①中学校 50人、高校 50人、②小学校 53人 ③小中高 150人)
※①、②については、中・高校の全英語担当教員を対象にH27から4年間で実施
- 目的：英語担当教員の指導力・英語力を向上させ、授業を改善・充実することで、生徒の英語力の向上を図る
- 内容：県教育センター、義務教育課、高校教育課が連携し、立案・実施する。具体は以下のとおり。
 - 『英語担当教員指導力向上研修(中、高)』（年間5回）
 - ・外部専門機関（国内大学、県内大学）と連携した全体研修（午前）
 - ・英語教育推進リーダーを研修講師等として活用した分化会型研修（午後）
 - 『小学校英語教育推進研修』（年間3回、終日）
 - 『英語授業改善研修』（1日）
- 全体研修について
 - ・第1回研修：英語教育を取り巻く状況について俯瞰、授業改善指導
 - ・第2～4回研修：英語力の向上、外部検定試験の取組に資する研修、英語指導・英語力に関する講義・演習等
 - ・第5回研修：授業改善に資する研修、総括
 - ※招聘講師には、本県の英語教育の取組について事前説明を行い、効果的な指導をいただく。
- 分科会について
 - ・第1～5回研修：中学校・高等学校別の分科会の形式で、英語教育推進リーダーを活用し

た研修を実施

② について

- ・小学校担当教員に対し、英語教育推進リーダーを活用した研修を実施

③ について

- ・小中高の担当教員に対し、県の英語教育推進計画等の説明、外部講師による講演、小中高の情報交換会を実施することで、小中高一貫した英語教育を推進
- ・杵築地域の研修協力校（小中高）における取組・実践事例発表。県内への情報提供を行う。

- 英語教員の英語力：「求められる英語力を有する担当教員の割合の改善」を図るため、(1)の研修修了者に対し、外部検定試験の受験を促すことで、国の目標値の達成を目指す。
- 研修の評価方法：(1)の研修対象者には、年間2回程度報告書の提出を求め、研修で学び取ったことが授業において効果的に実践されているか否かを確認する。
 - ・学校訪問時、研究授業における取組・状況確認（指導主事）
 - ・研修協力校における授業改善の状況確認（指導主事、大学教授等）
 - ・英語教育実施状況調査における変容確認
 ○研修内容とその効果を見極め、次年度の研修内容の改善を図りながら、平成30年度まで継続的な研修を実施する。
- 平成30年度までの研修計画：平成28年度～30年度まで、毎年100人（中学校50人、高校50人）を対象に実施する。平成30年には全員への研修が終了予定である。
- 外部専門機関及び研修協力校との関わり：
 - ・教育委員会は外部専門機関（大学教授等）と連携し、本県英語教育の現状について情報提供を行うとともに、課題の共有を行う。それを基に事前の打合せ等を入念に行い、真に本県の英語教育の改善に資する研修が実施できるよう工夫する。
 - ・研修協力校（高校）には、組織的な授業改善を指導するとともに、外部講師による研修の機会を設定し、専門的な見地から指導助言を受けることで、授業改善を図る。（外部講師を招聘しての研修会2回、指導主事による学校訪問等4回以上実施、小中高と連携した研修会も検討）
 - ・研修協力校（中学校、小学校）では、組織的な授業改善を指導するとともに、公開授業等を通して授業改善を図る。（小中高での研修会1回、指導主事による学校訪問等2回以上実施）

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	○(高校)校長会議、副校長・教頭会議での事業説明 ○(中学校、小学校)市町村教育委員会に対して事業説明	
5月	○(高校)学力向上推進会議での事業説明	
6月	第1回英語担当教員指導力向上研修 (午前:講義及び研修、午後:英語教育推進リーダーを活用した研修) 第1回大分県小学校英語教育推進研修 ○(高校)協力校訪問指導	大学教授
7月	第2回英語担当教員指導力向上研修 (午前:講義及び研修、午後:英語教育推進リーダーを活用した研修) ○(高校)協力校訪問指導 ○(小学校、中学校)協力校訪問指導	外部検定試験実施機関
8月	第3回英語担当教員指導力向上研修 (午前:講義、午後:英語教育推進リーダーを活用した研修) 第2回大分県小学校英語教育推進研修 英語授業改善研修(小中高)	外部検定試験実施機関等 大学教授等
9月	第4回英語担当教員指導力向上研修 (午前:講義及び研修、午後:英語教育推進リーダーを活用した研修)	大学教授
10月	第5回英語担当教員指導力向上研修 (午前:講義及び研修、午後:英語教育推進リーダーを活用した研修) 第3回大分県小学校英語教育推進研修 ○(小学校、中学校)協力校訪問指導(公開授業)	外部検定試験実施機関及び 地元大学講師
11月	○(高校)協力校訪問指導 ○(小中高)協力校合同研修	
12月	○(高校)協力校授業研究会(外部専門機関による研修会)	大学教授
1月		
2月	○(高校)協力校授業研究会(外部専門機関による研修会)	大学教授
3月	○研修に係る総括アンケート実施・分析	
【その他の取組】 ○(高校)進学力パワーアップ事業(年間9回実施)において、本研修の趣旨と達成目標について周知 ○(高校)研修参加者への情報提供やメール送信等によるフォローアップ実施 ○(中学校)指導力向上協議会において、本研修の趣旨と達成目標について周知		

